

令和3年度第2回富山市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和4年2月24日（木曜日）

午後 1時30分開会

午前 2時30分 閉会

2 場 所 本庁8階大会議室

3 出席者 富山市長 藤井裕久

富山市教育委員会

教育長 宮口克志

委員 若林啓介

委員 藤井久丈

委員 尾畑納子

委員 高田健

事務局関係

教育委員会事務局

事務局長 金山靖

事務局理事（学校再編担当） 舟崎文彦

事務局次長（総務・社会教育担当） 山本貴俊

事務局次長（学校教育担当） 大久保秀俊

教育総務課長 石黒健一

学校再編推進課長 関谷雄一

学校施設課長 井上剛秀

学校教育課長 竹脇孝志

生涯学習課長	高橋祐子
教育センター所長	川端紀代美
教育総務課長代理（管理係長）	余川毅
教育総務課主査	宮森知佳
企画管理部	
企画調整課長	刑部博規
企画調整課主幹	岸聡之

4 議題等

議題1 富山市立小・中学校再編計画（案）について

- （1）富山市通学区域審議会からの答申について
- （2）富山市が目指す学校教育の方向性について
- （3）学校再編計画について

5 会議の要旨

○開会

○市長あいさつ

○議題 1 富山市立小・中学校再編計画（案）について

※ 学校再編推進課長から、下記の点について説明を行った。

- （1）富山市通学区域審議会からの答申について
- （2）富山市が目指す学校教育の方向性について
- （3）学校再編計画について

○意見交換 (1) 富山市通学区域審議会からの答申について
(3) 学校再編計画について

【若林委員】

今回答申された内容については、概ね妥当であると考えた。少子高齢化、人口減少の時代において、過去40年間ほどの間に、富山市においても0歳～14歳、つまり小学校から中学校へ行く児童生徒数の数を見ると、半減しているわけである。今のままでいいと思われる方は、恐らくいないのではないかと思う。やはり教育委員会として、より優れた教育環境の提供、そして格差があまり生じないよう手を打つ必要があるということになれば、小規模校のメリット・デメリットという議論もあるが、適切な規模の学校のメリット・デメリットを、十分に保護者の方、あるいは児童生徒、そして教える側、つまり教員等についても理解をいただく必要があると思う。そして、その中で議論を進めていく必要があると思う。

小中学校は、教育の場であるという観点と、もう一つはコミュニティの中核的な施設であるという観点の両方があると思う。いかに優れた教育環境を、できるだけ多くの方に提供していくかという観点で、何がいいのかをしっかりと議論していく必要があると思う。もちろんその中で、「教えられる側」だけではなく「教える側」の状況、つまり教員の働き方改革という観点からも、考える必要があると思う。そしてまた、コミュニティの中核施設という観点からの必要性和、子どもたちにできるだけ優れた教育環境を提供するという価値を、どのように整合性をとっていくのか、あるいは妥協点を見つけていくのかというところは、ぜひ地域の方にしっかりと説明をしつつ、理解を頂くということが必要だと思う。いずれにせよ、私は、拙速に進めるということはやらない方がいいと思う。皆さんの理解を頂きながら進めなければならない。しかしながら、この人口減少というのは待ったなしで進んでいくわけであり、出来るところから進めていくということが必要だと思う。

【藤井委員】

この再編計画については、特に「適正規模の維持」「教室の過不足」「通学の時間」ということを基本に、これからストラクチャーを考えていくという方針だと思っている。実際に、この計画はしっかりと審議された計画案である。それに対しての答申も、少子高齢化、人口減少等の問題もある中で、今までの学校や地域の歴史について、そしてまたこれからの新しい教育の中で、しっかりと子どもたちが育っていく環境をどのように整えていけばよいかということ等、よく考えられての答申であると感じた。また附帯意見を見ても、通学の負担について、あるいは教育内容に関してもしっかりと審議されていると感じた。

それから、再編計画の進め方の問題だが、まずこれからスタートするという中で、それぞれの地域における人口の問題や、通学距離の問題等もあり、地域によって計画が進む速度は違ってくることもあると思う。そのことについて、審議会でもよく考えられた上での意見が出ていることは、非常に良いことだと思った。

また、答申には「地域文化についてもしっかりと検討するよう努められたい。」と書いてあった。そのことから、学校そのものが地域文化の中心であるということも考えておられる。そういう意味では大変よく考えられた答申であると思う。

少し気になるのは、この時点では意見としてあまり出ていなかったかもしれないが、これからの社会の変化ということについてである。例えば今、ICT等のGIGAスクール構想もあるが、ICTが進んできてはいるものの、コロナの感染拡大ということもあり、子どもたちの教育環境がうまく整っているかということになると、なかなか難しい側面もあると思っている。少子高齢化や人口減少という問題もあるが、もう1つ、これはもっと長期的なスパンで考えなければならないことだが、気候の変動、あるいは新興感染症があった時、どのような対応で学校が継続でき、その環境を継続できるかということも、今後、時代に合わせて考えていく必要があるのではないかと考えている。

【尾畑委員】

お二人の委員の方とほとんど同じ意見だが、しかし、これは見方によっては

極めて乱暴だとも思える。富山市は大変大きな市となったにも関わらず、旧富山市、旧町村と同じような形で考えられているということは、その地域の方にとっては大変ショッキングな提案であったのではないかと思う。今回の案は、10年、15年先を見た時に、今のままの状態だと、子どもたちのために何か対応をしていかなければならない。そのための1つのたたき台を出されたのだと思っている。幅広く様々な方が携わって、現地を見て考えられた計画なのだと思う。そういう意味では、一定の妥当性はあるだろうと思う。ただ、この附帯意見のようにすべての地域を同じように考え、一気に進めるのは難しいと思う。進め方としては、やはり特に教育に支障がありそうなところから優先するように、優先順位をつけて進めていってほしいと思う。

もう1つは、先ほど藤井委員からもあったが、長いスパンで考えると、環境変動という問題もある。そうすると教育だけではなく、災害への対応等様々な問題が起きてくる。そういった時に、どう対応するかということも考えていかなければならないという問題がある。その辺は行政、そして地域の方と十分に今後の事を話し合ってもらいたい。また、大きくなった富山市が、特色のある教育ができるという観点からも、この再編計画案を1つのたたき台として、進めて頂ければいいのではないかと感じている。

何かを始めるときには、何か土台が無いとなかなか進まない。そういう意味では、今回の再編計画案を1つのたたき台として、地域でどうしていくかということを考えて頂くということになるのではないか。

進め方として、地域ごとに十分配慮いただきたいと思う。

【高田委員】

今ほど説明があった、通学区域審議会からの答申は、妥当だと思った。また、学校再編計画についても、やるべきことだと私は思っている。

今コロナ禍も手伝ってという言い方は語弊があるかもしれないが、タブレットも配布され、オンラインで授業を受ける環境も整いつつあると思う。小中学校というのは、勉強だけすればいいかということ、そうではない。勉強だけをするのであれば、オンラインだけで事済むかもしれないが、やはり多くの人との交流や、様々な考えを持った人と様々な意見を交わすことによって、人間形成

していく場所、また、社会で生き抜く力を学ぶ場所だと思っている。そういった意味では、適正規模の学校というのは必要だと思う。ただ、デリケートな問題もあると思う。例えば、地域の衰退がさらに進んでいくのではないかという話もある。しかし私は、やはり一番中心にして考えなければいけないのは、子どもたちにいかにして質の高い教育環境を提供するかということだと思う。もちろん、予算の面等もあるので、すべての方が100パーセント理解できるような解決方法というのはないのかもしれない。しかし、その辺はお互いに話し合いや説明を重ねて、ある程度納得のいく形でこの学校再編を進めて頂きたいと思っている。

【教育長】

再編計画については、私も委員の皆様方と同様の事を思っている。

まず、スクールバスを活用してもなお、通学にかかる時間が長時間になる子どもがいる場合がある。その子どもが中学生なのか小学生なのか、それとも小学校の低学年なのか、そのような個別具体をしっかりと捉えていかなければならないと思う。地域によっては、この計画の中で、地域をまたいでの再編ということも案として示しているが、これは、子どもたちの確かな教育環境を確保するという観点もある。しかし一方で、地域の方にとっては地域に学校が無くなるということに対する想いもあると思われる。両者についてのメリットとデメリットをしっかりと示し、議論しながら慎重に進めていく必要があると思っている。ただ慎重にと言いつつも、尾畑委員からも言われたが、いたずらに時間だけが過ぎていき、さらに少子化が進み、小規模化に伴って子どもたちの教育環境や質が今以上に低下していくということにならないよう、必要なところについては、なるべく早急にアクションを起こしていかなければならないというところもあるのではないかと思っている。そのようなことも含めて、地域の方に説明し、理解を頂けるよう努力しながら進めていきたいと思っている。

【藤井市長】

答申については、私もよく熟読して吟味させていただいたが、妥当性が高いと拝見した。ただ、今ほど委員の皆様の見解にもあったとおり、教育の質を落

とさずに子どもたちの教育をどう維持していくということが一つの観点であるが、もう一つは、地域コミュニティにとって学校がどういう場所なのかということをおぼえてはならないと思った。先ほどの挨拶の中でも申し上げたとおり、地域を取り巻く環境は、それぞれの地域で全く違っており、それぞれ個別の事情もある。また尾畑委員からは、旧市、旧市以外の旧町村部についてのお話も聞いたが、一つは通学の距離の問題、もう一つはその地域全体としての衰退が進んだ場合どうなっていくかという問題もある。この案に縛られるものではないが、このたたき台を基に、もっと広い範囲で考えて、自由活発な意見が地域の方々から出てくればよいなと思っている。

市長としては、教育委員会としっかりスクラムを組んで、地域の方々の意見を丁寧に聞きながら、そんなに拙速にはではなく、今申し上げた観点で進めてまいりたいと改めて認識したところである。

ただ、例えば学校機能が無くなったとしても、避難所としての役割や学校開放、地域のスポーツの振興の観点等を含めて、また、集会や住民運動会等の行事もたくさんあるので、こういう機能は絶対なくしてはいけないと思っている。それを子どもたちの教育と一緒に考えるというのは非常に厳しいところがあると思う。これは、学校再編とは別に、地域住民あるいは地域にとって大事なことだと認識している。

○意見交換 （２）富山市が目指す学校教育の方向性について

【若林委員】

これは、今新たに全て出て来たというわけではないが、学校再編に伴って、今まで以上に社会とも綿密なコミュニケーション等が必要になってくる。この機会に、さらに教育方針を深化させていくということは、非常に良い方向づけではないかと思う。この資料２－２に述べられていることは、全てその通りだと私は思う。より一層、これから再編に伴って社会に入り、様々な説明をし、様々な議論をしていく中で、特にコミュニティスクールの拡大や、その他の今後の教育の方向性等について議論していく機会が従来以上に増えてくると思う。

是非進めていただきたい。

【藤井委員】

今までの教育の良い所は残しながら、さらにこれからの教育がどうあるべきかということをしつかりと考えていくということが必要だと、改めてこのコロナの時期に考えさせられたのではないかと思っている。今までは、この確かな学力の定着や豊かな心の育成、健やかな体の育成という目標があった。さらに、教員の資質の向上もある。ただ、従来のものだけではなく、Society 5.0の中で様々な勉強のデバイスが出てきたことで、教え方の変化も出てきている。そして、世の中が豊かになる一方で、決まったいくつかの正解があるだけではなく、無数の正解があり、それに子どもたちがどう向き合っていくかということをしつかり考えなければならないと思っている。確かにこの再編計画の資料の中には、様々なことが既に開始されてはいる。しかし、本当の意味での教育とは何だろうということ考えた時に、マスとして捉えるだけでなく、様々な子どもたちへの対応や教育の在り方、それから人と人の繋がりをどう教えるか等、新しい時代に向けた教育を今しつかりと模索していく良い時期ではないかと思っている。

【高田委員】

先ほども学校再編の話の中でもあったが、子どもたちのために、質の高い教育環境を提供していくことはもちろん必要だが、そのためには、そこで働く先生方にとっても働きやすい職場環境を整えることも必要ではないかなと思う。やはり、先生になりたいという人が増えるような環境であれば、子どもたちに提供する教育の質も自然と上がっていくと思う。今、働き方改革等と叫ばれているが、一人でも多くの方が先生になりたいと思える環境を作ることが、富山市の学校教育の質を高めることに繋がると思う。なかなか難しい問題ではあると思うが、その辺も併せて突き詰めて頂きたいなと思う。

【尾畑委員】

今コロナという大変な不幸にも見舞われたが、これがきっかけでオンライン

等、教育の手法が少し変わってきたと思う。今高田委員が言われたような、働き方改革という面とオンライン教育といった面をうまく活用して、進めていてほしい。仮にコロナが少し沈静化したとしても、オンラインを使いながら遠方の方、あるいは海外との交流等、グローバルとITを融合させて、進めて頂ければと思う。例えば先生が在宅で授業ができる日があれば、最初は大変かもしれないが、もしかしたら働き方の改善に繋がっていくのかなと思う。

もう一つ、これは市長にお願いだが、今、県の方ではかなり高校生の生徒数が減ってきて、高校の再編ということを検討されている。中核都市の富山市において、中学校と高校の教育について、どうしていくのか、市と県で一度、トップ会談をして頂き、子どもたちの減少と教育環境について、様々なシステムのあり様も含めてどうしたらよいのか、ぜひ意見交換をして頂くということも必要かなと思っている。

【教育長】

再編計画の5ページに項目だけが載っていて、その詳細を示した横A3版の資料2-2に「教育施策を深化・発展させる視点（ビジョン）」の主な方向性がある。これは、ゼロからスタートするというより、実はもう始動しているものがいくつもある。その方向性を、さらに深化・発展させていくということを書いたものである。

1月31日の通学区域審議会の最終回で、閉会の挨拶を私の方からした折に、委員の皆様から「一定の集団が編成される学校に馴染みにくい子どもが、安心して学べる環境を、どう整えていくか考えていく必要がある」という趣旨の発言があった。その際に、まさに私としては、「全ての小中学校を適正規模にする」といったことだけでは、「これからの子どもたちが安心して学べる環境を整えたということにはならないのではないか」ということをお話しさせて頂いた。

子どもたち一人ひとりの教育ニーズに、一つでも多く答えていくための、市全体の教育環境をどう整えていくかということ、そして教育の質の向上をどう推進していくかということが、教育委員会に課せられた大きな使命であると思っている。

そこで、この資料2-2の説明になるが、一つ目には、何度も継続して説明

してきているが、9年間の学びを充実させる小中連携と、これまでの小中連携、もっと言えば幼稚園・小学校・中学校の連携ということ、早ければ令和8年4月に水橋地区に義務教育学校が誕生するというので、今進めている。今回の再編計画の中でも、小中学校併設型の統合再編という案もいくつか示している。地域に入って説明する中で、議論が高まってきたときに、義務教育学校の設置ということも含めて、その通りやるのではなく、見直しをしたりしながら進めていきたい。メリット等については、資料に書いてあるとおりである。

二つ目に、委員や市長からも言われた、学校が地域コミュニティの中核であるということで、コミュニティスクールを順次開設・設置してきているわけだが、3月議会にその予算も上程しているところである。これがお認め頂ければ、今後の複雑化、多様化する社会の変化の中で、様々な課題に対応するため、今学校だけではなかなか解決しづらい問題、そして「地域の子どもを地域で育てる」という意識を一層高めて頂き、地域と共にある学校づくりを、これまで以上に進めていきたいという思いから、コミュニティ・スクールを推進していきたいと考えている。

三つ目として、藤井先生からも言われたが、「これからの変化の激しい社会の中で、力強く生きていく子どもたちに育む力」ということで、ICTもそのツールの一つかと思う。主体性、コミュニケーション能力、諸課題を乗り越える力等を育てていくための研修会も、主体性をどう育むかということに特化したものを新設する等、進めてきている。それから、委員の皆様とも3、4年前から視察に行ってきたが、「イエナプラン教育」というものも資料に記載している。これは、「イエナプラン教育」を導入しようと考えているわけではなく、そこにある良さを、どう公立の学校の中で導入していけるのかということである。例えば、3つの学年を1つのグループにして、自分で学んでいく計画を立て、友だちの力を借りたり、時には先生にアドバイスをもらいながら、「主体的に学んでいく」子どもたちを育むという教育をどう導入していくかということである。そして、コロナ禍でもあり、不登校児童・生徒がかなり増えてきているという実態が全国的に見られ、これは富山市においても同様である。標準規模校であれば、加配の教諭を活用し、そういった子どもたちに個別に関わることが出来るのだが、小規模校だと担任の先生しかいないという環境の中で、な

かなか個別に対応するということが難しい。そのようなことが解消出来たり、資料にもいくつか例示してあるが、行きづらいつ感じている子どもの保護者への対応、子どもたちの自然体験等の取り組みをさらに充実させながら、一人でも集団の中で自分を輝かせていける子どもたちを育てたいという想いである。

そして、教員の働き方改革についてだが、通常は1日5～6時間の授業の準備が必要だが、小規模校、特に複式の学校の先生方については、翌日2学年分の授業をしなければならないので、1週間に50～60時間も授業の準備をしている。そのような負担を、どう軽減して本来の形に持って行けるかということ等の課題を解決していける活路が、再編の中にもあるのではないかと考えている。それらを進めながら、子どもたちの教育環境だけではなく、教員の職場環境の改善等にも尽力していきたいと思っている。

ぜひそういった方向で、力強く推進していきたいと思っているので、委員の皆様、市長はもちろん、地域、保護者の皆様にもご協力いただきながら進めていきたいと思っている。

【藤井市長】

今ほど、教育長の教育にかける想いというものも聞かせて頂くことができた。また教育委員の皆様方の、将来の富山市の教育、今の富山市の教育に対する愛情に満ちた大変貴重なご意見を頂くことができた。改めて富山市の全ての子どもたちが、立場や置かれた環境に関係なく、質の高い教育を受けられるような、そういう市にしていかなければならないと改めて思った。今までの富山市も富山県もそうであったが、小学校・中学校の地域における役割が、地域コミュニティの中の中心であったという紛れもない事実がある。このこともしっかりと議論していかなければならないと思った。

教育委員の皆様方の意見、想い、そして教育長の意見、想いも聞かせていただいた。意見の中の半分近くは、やはり地域にまつわることも多かったので、これについて、市長部局も教育委員会とスクラムを組んで、同じ方向を向いて、皆様方のお力もいただきながら、進めていきたいと感じた次第である。

本日は大変有意義な時間を過ごさせていただいたということに改めて感謝申し上げます。

○閉 会